



トゥールーズ日本語補習授業校

補習校便り

2012年9月号

九月です。新年度がスタートしました。長い暑い夏休みの間に子供たちはそれぞれびっくりするほどの成長をし、それぞれの新学年登校日を迎えたのではないのでしょうか。

新しい年度を迎え、トゥールーズ日本語補習校も授業内容やクラス編成などの改編を経て9月5日から新年度の授業を再開しています。トゥールーズ日仏協会でも、会員の協力で茶の湯の会や日本の食文化のアトリエといった新たな活動の企画開催が実現・スタートすることになりました。

9月23日には、元気な子供たちにそれから父兄も含めきっとみんなが楽しみにしている恒例の運動会も控えています。

これから少しずつ、秋へと本能的に季節が変わってゆきますが、皆様お元気で、文化の秋・スポーツの秋をお楽しみください。

* * * * *

今回の補習校便り、新年度スタート号ということで各校の先生方に子供たちや父兄の皆様へのメッセージを寄せてもらっています。誠意ある先生方と学ぶ新たな一年、今年度も子供たちにとって楽しく実りある時となりそうです。

**** 各校先生方からのメッセージ * * * *

市内校 幼稚園部担任 山林聡子先生

こんにちは。6月より市内校で土曜日の幼稚園クラスを担当させていただいております、山林聡子です。以前にも、ラベージュ校や市内校の小学生クラスを担当させていただいたことがありましたが、また復帰させていただくことになりました。

みんなと一緒に楽しく日本語と触れあい、学べる時間にしたいなあと考えているのですが、授業を構成するのは正直なところ、とっても難しいです。お子様たちには楽しく日本語と親しむ機会として受け止めていただけるように、素敵な授業ができるようにがんばっていきたいと思います。

現時点で考えている授業内容といたしましては、

1. 毎月、歌を決めて歌う(歌詞カードをプリントして配りますので、おうちでも一緒に歌っていただければ幸いです)
2. ゲーム遊びを取り入れる(色鬼、はないちもんめ、ハンカチ落とし、など)
3. 季節の行事を取り入れる
4. ひらがなの読み書き
5. 絵本読み

以上です。

保護者の方からのご要望などもお聞きして、随時授業の改善に努めたいと思います。至らない点等、多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

山林聡子

ラベージュ校 小学部中学部(国語科・生活科)担任 Coutelier 沙織 先生

新学期スタート

こんにちは。長かった夏休みもあっという間に通り過ぎていった気がします。

夏休み明け最初の授業は「夏休みの思い出プレゼン大会」の予定です。

みんなの夏休みの楽しかった思い出を聞くのが楽しみです。

今学期は生活の時間で「磁石」「虫眼鏡」などを使った実験なども取り入れていきたいと思っています。

国語の時間も、また楽しみながらできるよう、教科書にとらわれない学習も取り入れていきたいと思っています。今学期も頑張りましょう。

クリエ沙織

市内校 小学部中学部 (国語科・生活科) 担任 筑田 映里 先生

市内校土曜日クラス 新学期の目標

低学年 (国語)

皆、とても仲良しで、時々、そのせいで、羽目を外してしまうこともあるようですが、一緒に学ぶという雰囲気、だんだんと出来上がってきてとても良い傾向だと思っています。国語科新学年の目標は、まず、ドリルなどで、今までの復習を行いながら、少しずつ教科書の項目に従って、進んでいきたいと思っています。教科書の音読や、簡単な詩の朗読を今まで通り続けながら、ひらがなに加えて、カタカナの習得(できれば、6割)、さらに、漢字の習得なども、行っていきます。漢字については、生徒が、とても興味を持っているようなので、比較的順調に進んでいけるのではないかと考えて見えています。また、短い日本語の文章が、少しずつ書けるようになる事、さらに、発表などの機会を通じて、会話力の強化なども、同時に行っていく予定です。

高学年 (国語)

学習態度については、このクラスは、全く問題なく、皆、それぞれのペースで積極的に取り組んでくれているので、新学期以降も、この調子で、学習を続けてくれたらと思っています。新学期、スタートは、まず、今までの復習などを中心に、その後、教科書の項目に従って、今まで通り進んでいく予定です。個人のペースに合わせて行っている漢字検定、音読の強化、新出漢字の習得は言うまでもなく、使える日本語の語彙をだんだんと増やしていく事、また、クラス日記などのようなものを通じて、文章力の強化も行っていけたら、と思っています。

低学年・高学年クラス (生活科)

現在、年齢差のある複式となっておりますが、今のところ、低学年にとっては、高学年の生徒と一緒に学習する事が、ある程度、刺激となっているようです。新学期スタートは、まず、夏休みの思い出を、皆それぞれ、思い思いの形で、低学年の生徒も、高学年の生徒も、各自、皆の前で、発表してもらうことから、始めていきたいと思っています。低学年、高学年ともに、国語科で学んで国語力、日本語力を使って、今まで通り、日本の季節の伝統行事に関する事、地理や歴史についての学習、また、理科学習なども、子供達の様子を見ながら、遊び心を取り入れて行っていく予定です。

筑田映里

ラベージュ校 幼稚園部 ・日本語講座担任 川上ようこ先生

5月からラベージュ校で幼稚園クラスを担当させていただいております、川上ようこです。よろしくお願いいたします。

私は、これまで主にフランス人対象に、いくつかの教育機関で日本語を教えてまいりました。中学高校(英語・フランス語・公民)の教員免許は持っていますが、幼児教育の経験はあまりありません。お仕事をお引き受けするのにあたり、日本で小学校一年生の男の子への家庭教師の仕事のことを思い出しました。

そのお子さんは勉強と聞いただけで反抗し、親御さんが困って家庭教師を頼んだとのことでした。どうも、就学前に通った学習塾Kで、ひらがな習得を強制され、机の前に座ること＝勉強＝強制 →「嫌」になってしまったようでした。その子の興味を大切にしてくれることで、「嫌だ」を少しずつ解消することができました。

どうせやるなら、お互い楽しくやっていきたい、というのが私の信条のひとつです。

しかしながら、楽しいだけではどうもだめなようです。フランスの大学の日本語学科には、日本大好き、アニメ大好きといった学生さんが大勢登録しますが、ひらがな、かたかな、漢字が覚えられず、嫌になり大勢が挫折していきます。彼らの日本を好きで居てくれる気持ちを大事にしてあげたいのですが、学習を持続させるのは難しいようです。

情報工学校でも日本語を第2外国語で教えたことがあります。授業時間が少ないにもかかわらず、みるみる上達し、数名が留学しました。両者の大きな違いは「目的」です。情報工学校の学生は、日本へ行って専門のITを勉強したいという明確な目標があり、それが学習意欲、動機となり、そして、語学習得につながっていたようです。

子供であっても同じです。「お父さんやお母さんともっと話をしたい、自分の話を聞いてほしい」あるいは、「おじいちゃん、おばあちゃんに会いたい」といった気持ちが彼らを学習へと強く突き動かします。私はその気持ちを大事にしてあげられるクラスづくりをしていきたい、そう考えています。

「育」という漢字は、本来「育つ」だと思います。「育てる」というのは、大人の一種の驕りです。「育てよう」と考えて、強制したり押し付けたりすることはしたくありません。子供たちが「育つ」ことをサポートしてあげること、それが私の抱負です。微力ながら、皆さんのお役に立てればと考えています。

* 協会の新しいアクティビティ

Speak'eat (食と言葉のプランニング会社)とのコラボによる日本料理文化教室

開催: 月1回

料理担当: 協会会員、山崎郁子さん・アミエル陽子さん
毎月の日本文化のテーマに合わせて料理を紹介する日本料理文化教室です。

茶の湯を楽しむ会

開催: 9月18日より(9月中はお試し期間)週1回

講師: 協会会員、高橋久美さん

トゥールーズ周辺では初めての茶道教室です。

* 九月のイベント

運動会

日時: 9月23日(日曜日)10時より12時頃まで

場所: ラベージュの公園

雨天の場合 Salle polyvalente)

* 協会9月の対外活動報告

9月9日、LABEGE市のFETE DES ASSOCIATIONSに参加

LABEGE公園でスタンドを設定、当協会の活動を説明しながら新会員の募集活動をしました。



領事館からのお知らせ 在外選挙については別紙案内をご覧ください

e-mail af31jt@gmail.com website <http://afjt.web.fc2.com/>